

「(農)三代原ファーム」から雲南地域でのアスパラガスの産地づくりに向けて

1. 農事組合法人 三代原ファーム(雲南市)

【設立】 H31年1月設立

【組合員】 75人

【経営面積】 19.5ha

【経営内容】

水稲 15.8ha

畑作物 2.8ha

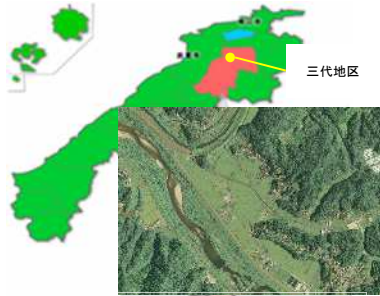
(そば、大豆等)

園芸品目0.9a

(アスパラガス、

白ネギ、ミニトマト)

リースハウス4a×6棟



農業競争力農地整備事業 (H29～R7年度)

2. 取組の経過及び概要

H29年からの「農業競争力農地整備事業」導入を契機に、米に依存した経営ではやがて立ちゆかなくなると考え、**園芸品目導入により経営を多角化**し、雇用体制づくりを目指す。

その一つの品目として、**女性がいきいきと活躍できる場を創出したい**との思いから**アスパラガス**を導入。

R2年度にJAが「農業用ハウス等リース支援事業」で整備したリースハウス3棟(12a)を活用し、R3年に定植、R4年から収穫を開始。

収穫や防除作業の負担軽減を図るため、**高畝栽培方式**や**ロボットスプレーカ(防除機)**を導入。



高畝栽培

「R2年水田園芸拠点づくり事業」



ロボットスプレーカ (防除機)

R2.9月補正「新型コロナウイルス感染対策農林水産収益向上緊急支援事業」

3. 取組の成果

(1) 女性の活躍の場づくり

園芸担当のリーダーは女性が務め、リーダーが休暇等を考慮しながら労働力を分配し、細やかな栽培管理と出役管理を実施。

アスパラガスは重労働が少ないため、女性でも作業がしやすく、**出役者も増加**。

(2) 地域への波及効果

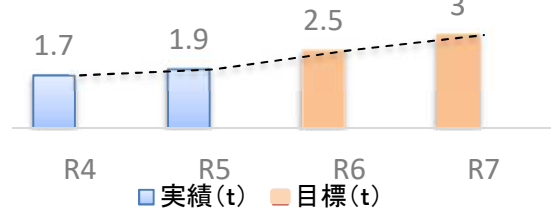
雲南市の産業体験中の就農希望者や、圃場整備地区の視察受け入れを積極的に行っており、雲南市内で**アスパラガス栽培への興味関心が向上**。



女性研修生の作業の様子

(3) 単収の向上

ハウス内の通気性を確保し、徹底した薬剤の予防散布に努めた結果、**病害虫発生率が低下**し、年々単収が向上。



代表者から一言

「アスパラガスは重労働が少なく、高畝にすることで省力化にもつながり、収益性も確保できるため産地化に有利な品目。地域として生産量を増やしていき、有利な販売につなげていけたら嬉しい。」
「将来的には旧加茂町全体をカバーする経営体に発展させ、後継者の確保につなげていきたい。」

錦織基樹 農事組合法人三代原ファーム代表

4. 課題と今後の取り組み方向

(1) 共同選果場の整備

現在は斐川の選果場まで運んでおり、労力や費用がかかるため、新規栽培者を増やし、地域としてのロットを確保しつつ、**共同選果場のあり方についての検討が必要**。

(2) 後継者の確保と育成

アスパラガスを多角化部門の主力品目として、さらなる収益性の向上を図り、集落内にこだわらずUIターン者の受け入れを検討し、**後継者を確保・育成**。